

第11回 浜松市芸術祭 演劇部門

11月21日(日) 午後〇時半開演

浜松市民会館

主催 浜松市教育委員会

新らしい飛躍のために

——浜松アマチュア演劇のこれから

「私たちはよくこんなコトバを聞かされます。

「西部のアマチュア演劇活動は低調だ」と。

たしかに低調とみられてる仕方のない部分もあります。しかし、浜松市芸術祭演劇部門が10年もつづいたという歴史と、県下のどこの演劇のつどいでもみられぬほど多くの人を動員できたという事実は、決して私たちの活動が低調ではないことを物語っているといえるでしょう。勿論、10年もつづいたということに甘えてはなりません。それは私たちの先輩が切り拓き、築き上げた記録であって、私たちはほんの一部に携っているにすぎないです。

こんなことを云えば叱られるかも知れませんが、私たちの演劇活動が低調だとするなら、それは単に演劇のみにとどまらず、この地方の文化全般が未だ充分の発展を遂げていないうのも知れません。だがそのことは別の問題として論じられべきでしよう。

私たち自身の反省として、活動が不充分だという点があるのは、そこに立ちふさがっているアマチュアリズムの限界に押されているということです。

一人の人が何年、この仕事をつづけているでしょうか。年々歳々、新らしい人が加わり、去って行く人の数も多いのですが、情熱を注ぎ、活動の本質にふれ、実際の仕事に馴れた人々がその場に残つて、新らしい人たちと一緒に新らしい仕事をすることが、今、いったいどれほどの数でつづけられているでしょうか。次々と新らしい世代の人々を迎える入れば発展はありませんが、古い人たちが出来る限りつづけることが、業余という制約の中では困難であり、それが活動を低下させる大きな要素でもあります。

職業や家庭の生活事情、殊に女性にとっては結婚という大きな人生の転換があります。新陳代謝が急速すぎることは、どの劇団にとつても共通の悩みといえることです。

「夕鶴」などの力作を上演した劇団たるまは今年六年目を迎えましたが、人員の不足という事情のために今年の芸術祭には参加できませんでした。一

緒に仕事をして来た私たちにとってこんなに残念なことはありません。苦難をのり越えて来るべき芸術祭のステージには、一緒に立てるのを、私たちは心から祈っています。

同じことは劇団からかぜについても、昨年、一昨年と二年の空白の時期について云つたことですが、芸術祭の歴史と共に歩んで来たこの劇団は、劇団新からかぜを結成して今年再び旧来の名称に戻り、この二年間の基礎づくりの中から第一期生を生み出しました。現在、人員数の最も多いことも強味です。

しかし残念なことはまだあります。一時は浜松アマチュア演劇の中心であった職場演劇が次第に衰退し、僅かに健斗していた団体浜松工場、専売浜松工場が、今年は合同協力の態勢も整わず参加できないことです。新幹線修理工場という特殊条件を持つ国鉄工場の演劇活動は今後更に苦しくなるかも知れませんが、職場演劇復興の足固めとして、今後の活動を期待してやみません。

青年演劇は、コンクールに一日を費しても足りぬほどの過去の盛況から全く後退し、新津青年会のみが毎年、独特的のレパートリーを持ち、昨年は「寒鴨」で県芸術祭にも参加しましたが、青年演劇は青年会の活動全般とつながっていますし、年令の制限もあるので、問題は単に演劇活動のみでは云い尽せぬ困難があります。今年、市に合併した庄内青年団では演劇部が三つもあるので、この二つの青年会を車の両輪とし、青年演劇が新らしい時代へ再び発展することが強く望れます。

そうした状況の中で、今年新たに劇団が結成されたことは、私たちに信心強さを与えてくれます。或いは、創作劇を上演してじぶんたちの演劇を造りつつある劇団なかもが、今年三年目を迎えてのこれから活動。昨年、三幕もの創作劇を上演して意欲を示した浜松放送劇団の、アマチュア演劇界に送り込むすぐれた技術。

しかし、アマチュア演劇活動は多くの劇団、多くの人々の力を結集して、はじめて成果を得ることが出来るのです。10年を一つの期間の単位として考えれば、11年目を迎えた今年は、新らしい段階に立つて次の飛躍をしようとするスタートの年です。或る意味では、これから新らしくはじめから第一步を踏み出す年です。そのためにも、私たちはもつとみんなの力をあつめなければなりません。

来年、その次の年、更にその次の年、絶やすことなく私たちの活動を、次の10年後によきみのりのために、つづけて行こうと思います。

プログラム

☆ 開会のことば

浜松市教育長

☆ あいさつ

芸術祭演劇部門実行委員長

☆ 上演順序

1. カラールのかみさんの銃 1.00～2.15

〈劇団麦〉

2. 密林地帯 2.30～3.20

〈浜松放送劇団〉

3. よだかの星〈習作〉 3.35～4.50

〈劇団なかま〉

4. さっぱ夜話 5.05～5.55

〈劇団からっかぜ

一期生〉

5. 村人 6.10～6.55

〈庄内青年団〉

6. 象の死 7.10～8.10

〈新津青年会

演劇部「浜っ子」〉

ブレヒト・作

ペ・ヤーリツェフ・作
野崎韶夫・訳

宮沢賢治・原作
櫻啓介・脚本

カラールのかみさんの銃一幕

劇団麦

密林地帯一幕

浜松放送劇団

（スタッフ）

演出 演出
舞台監督 舞台監督
舞台装置 照明
衣装 効果
キヤスト

水科左部
島崎のぶ子
島篤史
蛇沢伸太郎
哲史

田中道子
石川 篤史
松本玲子
松本玲子
田中道子

演出 演出
同助手 同助手
舞台監督 舞台監督
舞台装置 装置
同山下しげ子
同高野幸雄
同馬淵浜子
同長谷川憲夫

村越一哲
藤井浩子
藤井良彦
藤井勇彦
戸田一郎

演出 演出
同助手 同助手
舞台監督 舞台監督
舞台装置 装置
同山下しげ子
同高野幸雄
同馬淵浜子
同長谷川憲夫

村越一哲
藤井浩子
藤井良彦
藤井勇彦
戸田一郎

（キヤスト）

演出 演出
同助手 同助手
舞台監督 舞台監督
舞台装置 装置
同山下しげ子
同高野幸雄
同馬淵浜子
同長谷川憲夫

村越一哲
藤井浩子
藤井良彦
藤井勇彦
戸田一郎

■作品が生れるまで

■よだかは醜い鳥だ。だから、森の鳥たちからはのけ
もの扱い。かわいそうなよだかは、こんな森の世を離
れて、星になろうと思った。夕日で空がまっ赤に燃え
た日、よだかはひとり森を出てゆく——宮沢賢治の
話である。

■私たちによだかに会ったことがある。いや、私たち

よだかの星（習作）二幕

劇団なかま

（スタッフ）

製作 中沢幸夫
演出 櫻啓介
舞台構成 太田静興
同藤沢伸太郎
同小野田浩子
同児玉博子
同山下しげ子
同高野幸雄
同馬淵浜子
同長谷川憲夫

製作 中沢幸夫
演出 櫻啓介
舞台構成 太田静興
同藤沢伸太郎
同小野田浩子
同児玉博子
同山下しげ子
同高野幸雄
同馬淵浜子
同長谷川憲夫

（キヤスト）

よだかの母親 小野田浩子
よだかの母親 小野田浩子
山鳩 大城多佳夫
山鳩 村松靖代
かわせみ 同
ひばり 石津義之
かわせみ 村松靖代
たか 渡辺洋二
男の星 中村ふく子
男の星 1 武井紀夫
女のはる 高野幸雄
女のはる 高野幸雄

ブレヒト・作

カラールの かみさんの銃 一幕

劇団麦

其の他	テレーサ・カラール	衣効	演出
二人の漁夫、三人の女達	ホセ	舞台監督	演出
ペレースのかみさん	ペードロ・ファケーラス	舞台装置	演出
神父	パオロ	衣装	演出
マヌエーラ	島田道子	果物	演出
左部	島中道子	明	演出
水科	石川哲史	舞台監督	演出
右部	松本玲子	監督	演出
片山	水科左部	松本玲子	演出
美津子	島篤史	鷲澤のぶ子	演出
其の他	片山	田中道子	演出
二人の漁夫、三人の女達	美津子	鷲澤のぶ子	演出

スタッフ

ゴルベヴァ	ジーナ	衣効	演出
ロスト・ツイ	フェージャ	舞台監督	演出
マヌエーラ	小道具	同助手	演出
左部	衣装	舞台監督	演出
右部	果物	舞台監督	演出
水科	明	舞台監督	演出
片山	舞台装置	舞台監督	演出
美津子	同	同	演出
其の他	（キヤスト）	同	演出

（キヤスト）

■よだかは醜い鳥だ。だから、森の鳥たちからはのけもの扱い。かわいそうなよだかは、こんな森の世を離れて、星になろうと思った。夕日で空がまっ赤に燃えた日、よだかはひとり森を出てゆく——宮沢賢治の童話である。

■私たちにはよだかに会ったことがある。いや、私たち

■作品が生れるまで

よだかの母親＝小野田浩子
よだか＝野中駿子
山鳩＝大城多佳夫
山鳩＝中村ふく子
かわせみ＝村松靖代
ひばり＝石津義之
ひばり＝渡辺洋二
男の星・1＝武井紀夫
男の星・2＝高野幸雄

ペ・ヤーリツェフ・作
野崎韶夫・訳

宮沢賢治・原作
櫻啓介・脚本

密林地帯 一幕

浜松放送劇団

（スタッフ）

■制作＝中沢幸夫
演出＝櫻啓介
舞台構成＝太田静興
同＝藤沢伸太郎
同＝小野田浩子
同＝児玉博子
同＝山下しづ子
同＝高野幸雄
同＝馬淵浜子
同＝長谷川憲夫
同＝山城多佳夫
同＝中村ふく子
同＝村松靖代
同＝渡辺洋二
同＝武井紀夫
同＝高野幸雄

よだかの星 〈習作〉二幕

劇団なかま

■スタッフ

製作＝中沢幸夫
演出＝櫻啓介
舞台構成＝太田静興
同＝藤沢伸太郎
同＝小野田浩子
同＝児玉博子
同＝山下しづ子
同＝高野幸雄
同＝馬淵浜子
同＝長谷川憲夫
同＝山城多佳夫
同＝中村ふく子
同＝村松靖代
同＝渡辺洋二
同＝武井紀夫
同＝高野幸雄

上演の意義

私達がブレヒトの「カラールのかみさん……」を取り上げたのは、今日の様に混乱した社会状況の下に、多くの人々に観てもらいたいと痛切に感じたからである。今から二十年前、多くの人が戦争の悲惨さを身を持って体験している。しかしながら、今日の反動政治家達の政策はどうであろう。又しても、日本国民を戦争の危機に追い込みつゝあるのではないでしょか？三矢作戦を始めとし、日韓条約批准、果ては防衛幹部のベトナム攻撃参加等の帝国主義的な軍事政策が押し進められています。今こそ罪のない人間同志が殺し合う戦争に反対し、眞の平和を戦い取らなければいけないと思います。

あらすじ

この劇はスペインの国の内乱を舞台に、眞の平和を願う人々が如何に戦つていったかを描いています。一九三七年のある夜、アンドルシア州の漁夫の家から始まる。二年前の暴動（オビエート州）で夫をなくし、今は一人の息子と貧しい生活をしているカラールのかもしれません、隣近所の人達が人民軍の前線に続々と参加していく現在、自分達の立場をどう思い、どう考えているのか。自分の息子が可愛い、自分達の家庭を破壊したくないと思うカラール。だが戦わざして、平和は来るであろうか、神に祈れば平和は来るであろうか、手を出しさえしなければ、戦いに参加しなければ、カラールの一家は無事であろうか。母親として、一家の主として悩み、苦しむカラールが、この苦しみを如何にしてはねのけ、保守性を捨て、自己変革をしていったか……。

あらすじ

一九三〇年代のシベリヤ。鉄道からは数百キロメートルも離れ近くの河を潤してくれる船だけが唯一の交通の便であると云う様な開拓地。そこでのゴーレベルバと云う保健婦の家に或る日二人の旅人が訪れる。

一人はジーナという女医でもう一人は彼女の恋人でフェージャと云う毛皮飼育場員であり、共にここより更に三〇〇キロメートルも奥地にあたるニコリースキー地区で五年間働き続けて六ヶ月にわたる初の休暇をレニングラードで楽しく過すべくこの地を訪れたものである。

…………処が思いもかけない運命が二人を待ちうけていたのだ。

この地区的教師であり指導者でもあるロストーフツェフの一人娘が高熱を発し呻吟していたのである。折しも河は序々に結氷を始め数時間後にここを出る船が今年最後の便と云う事になる。もしされに乗り遅ればこれから後の半年間と云うものは雪と氷と共にこの地に鎖じこめられ、レニングラードへの帰郷等思ひもよらない様な状況におかれれる。

然かも診察の結果は「クループ肺炎」であり相当悪化している。

抗生素質のないその当時としては気管切開をやらなければ助かる見込みはない。

「子供の命か」。それとも……千々に乱れるジーナの耳に無情にも一番目の気笛がなり響く。

■とにかく、せまい世界だ。小さな声で「ア」といつても、やはり「ア」とこだまする世界だ。それに比べたら、あの天体の神秘な星が、よだかの脳裡に浮んで不思議はない。だから、星になりたいは至極当然のことだ。すると、星って何だろう。ただの物体だろうか。もっと、精神的なものだろうか。よだかは、あれおかしな話だ。よだかは鳥である。鳥が星になれるわけがない。星は星、まったく別の次元のものだ。いくら考へても答えは同じだ。よだかは飛躍していないだろうか。思い過しではないだろうか。よだかは、あれおかしな話だ。よだかは鳥である。鳥が星になれるわけがない。星は星、まったく別の次元のものだ。いふうつもりなのだろう。「ワーエ、（理想）に到達したア」と叫ぶつもりなのかもしれない。

■以来、胸の奥に「ボカッ」と穴があいて、冷めた、風が吹いている空間があるようだが、考えてみれば、それは私たちの方だった。よだかはどうであろうか星にならなかったのだろうか。

劇団研究生を募集しています
只今

十八才以上の男女、高校生は二年生以上なら資格があります。

御希望の方は履歴書を浜松市大蒲町N H K 浜松放送局放送部宛に急いで下さい。

大切は十一月三十日です。

竹内勇太郎・作

さつぱ夜話 一幕

劇団からっかぜ

第一期生

(キャスト)

衣裳	小道具	照明	舞台監督	演出
道具	服装	置	監督	
果	装	明		
装	道	置		
（	小	明		
あ	效	置		
ら	衣	置		
す	装			
じ	道			

河加作	高杉昇	坂口節子
獨孤	山下久子	春風吹太
娘	山上美保子	一期生
師		協力
加		劇団からっかぜ
作		

都に行けば、楽しいへうし、面白いことが山程ある
と夢のように憧がれて、お袋さまをみて、あづ、さをする
て、家をしてただ安樂で華やかな都のくらしを夢に
みて、都へ上ったものの、上ってみれば、成程、都は

最三格誠・作

村 人 一幕

庄内青年団

(キャスト)

衣裳	小道具	照明	舞台監督	演出
道具	服装	置	監督	
果	装	明		
装	道	置		
（	小	明		
あ	效	置		
ら	衣	置		
す	装			
じ	道			

議員	勝	勝	坂口節子
B	清一	夫	春風吹太
百姓A(春吉)	定一	(勝夫の父)	一期生
工員	おみつ	(おみつの父)	協力
	プローカー		劇団からっかぜ
石塚正勝	中西秀勝	今田房宣	最三格誠
藤田かつ江	中島泰弘	田中恒久	徳増勝弘
小松克弘	野中繁樹	油井万喜	田中久夫
野中のりお	鈴木栄一	田中房宣	田中房宣
藤田かつ江	後藤幸子	阿部三雄	田中房宣
小松克弘	中島泰弘	松本収市	田中房宣
石塚正勝	野中のりお	他	田中房宣

斎藤瑞穂・作

象の死 一幕

新津青年会演
劇部「浜つ子」

(キャスト)

化粧	衣裳	効果	小道具	照明	舞台監督	演出
柱	柱	柱	柱	柱	柱	

小	松	本	幸	水	小	小	小	化
鶴見和子	岡	本	協	野	松	鶴	松	粧
	本	協	子		本	見	本	化
	協	子			勝	和	勝	粧
	子				幸	子	幸	粧

獣医主任	大井	増井	増井	増井	増井	増井	増井	化
獣医助手	栗原	東	東	東	東	東	東	粧

美しい処でした。その美しさは家と着物だけのこと

人は心は氷より冷たく——隙あらば人を騙し人を踏みつけた、ただ願うは己が榮達——恐ろしや、地獄のように荒れ果てた処でした。

わしは、その中で必死にもがき苦しみましたぞ。この十年が——なんで田舎からぱっくり出た愚者の男に幸なんあるものか、働いても働いても——よせん

は間抜の田舎者、冷たい蒲団にくるまって疲れた体で見る夢は、何時もやさしいお袋さまの夢じや。恋しい

あづさの笑った顔じや。そして、れんげの咲いた春のたんぽじや。わしらの本当の幸せは、やはり故郷のさ

っぱの里で楽しく三人でくらすことじやと、身にしみて良うわかりました。袋さまは、阿加作の出世は望まぬと弥六に伝えたその一言、痛い程に心にしましたぞ。

(さつぱ夜ばなし台本より)

■劇団からつかぜ

私達は一年、名前を劇団、新からつかぜにしました。しかし、私達の先輩の残した10年間の歴史をふんまえさらに発展させる意味でこの度第三回総会をもつて劇団からつかぜに再度名称変更をしました。よろしくおねがいします。

(劇団からつかぜ第一期生)

今年、9月から私たちの第一期生が始まりました。

平均年令は18才と半年ぐらいです。みんな若いですが、若さとファイトで演劇を行なう人間ばかりで何も知りませんがよろしくおねがいします。

あらすじ

六月の出来事。田植時期だというのに、雨は全くふらない。たのみのポンプも水は出なくなってしまった。水中ポンプにすればよいのだが、それはあまりにも高価だ、ポンプの世話人である清一は茫然としてしまいます。

昔からの田んぼは、道が細くて、機械化にはほど遠い状態だ。百姓の中には、もうあき／＼したものも出て来る。

そこに水不足、農耕の条件は、決定的に切れてしまふ。

勝夫はしきりと団結して、役所に実情をうつたえようとするのですが、百姓達は、お互に自分の欲にからんでいて、いつこうに聞こうとしない。

そんな時、定一の田んぼの溝にためてあった水が無くなつたのです。定一は、ポンプの世話人の清一の責任だと決めてしまう。しかし、これは百姓の困窮をねらつた、ブローカーの悪だくみだったのです。

一つの事件をきっかけに、百姓達がお互の理解を深めようと決心する。――

どの村にもあるこうした出来事、私達は、とかく定一のようになりがちではないでしょうか。

明るい日ざしをうけてさえずる小鳥

のどかに羊のなく屋下りの動物園

——昭和十九年、動物園には、猛獸を殺す様に軍から命令が下っていた。――

ライオンや熊や虎は次々と軍の手によって殺されていった。「わしは動物を殺すことは出来ん」と、最後迄軍に反対する大井。

「國賊！」とのへしり「殺せ！」と迫る中尉石井……。

「象の死」をめぐって、くりひろげられる物語の中に生れる「深いかなしみと強い平和への願い」をこめて、「戦后二十年」と云う言葉を皆さんと共に改めてかみしめていきたい。

陸軍獸医中尉 石井

動物園の雇員 山野

大井家のばあや うめ

山田富士男
井口良一
山村徳子

かいせつ

この「象の死」は戦時中、東京上野動物園で実際にあつたことを物語にしたもので。

この「象の死」は戦時中、東京上野動物園で実際にあつたことを物語にしたもので。

×

×

×

×

×

×

×

私たちの

ばかり、誠に御同慶の至りだが」ではやる方も観る方も全く大変だ。

地域社会の文化向上と斯道の育成と奨励の意味では是非来年度の芸術祭公演は二日にして頂き度いのですよネエ。

▽ ▽ ▽ ▽ ▽

ことば

「夜の来訪者」はオクラ入りにせず来年に入つて自主公演と云う事になりそうである。

観客の皆様には

その節は是非御観劇いたゞき度く今からよろしくお願

い申し上げます。

■浜松放送劇団

昨年の村越一哲作「虚構の城」三幕（上演時間二時間半）に引き続き今年もプリーストリー原作、内村直也翻案

「夜の来訪者」三幕（上演時間二時間十分）を企画リハーサルに入った処、芸術祭の打合せの席上で今年も二十一日、一日のみで然かも、七劇団が参加、上演時間は八時間以上に達すると云うので、急遽ベ・ヤーリツュフ作「密林地帶」一幕に変更せざるを得なくなつたと云う内部事情に劇団内は喧々ごうく

○氏を始め、二、三のキャストについた連中曰く
「一幕目の台詞を折角覚えてしまったのに、今更中止とはそりや殺生な。」
とくさることく。

又S君等若い連中は
「民芸の様な大劇団でさえ三幕ものを浜松で初日をあける時には市民会館の舞台で三日も時間かけてみっちり舞台稽古をやっています。……にも拘らずアマチュアである我々が三十分位いか出来ないのじや立派なものなんか出来っこありませんよ。照明合せ、効果合せだって口々に出来やしない。来年の芸術祭は是非二日にしていたゞくですね。」

▽ ▽ ▽ ▽ ▽

■劇団“麦”団員募集

劇団“麦”として活動を始めてから早や五ヶ月、私達は演劇が単に好きだからやるのはなく、自分達の生活の中の一端として観客に学び、共に発展していくことだと思う。

大衆の要求が何であるかということをつかみ、そのものを演劇として表現したいと思います。

劇団麦は今年の七月に発足したばかりです。私達と共に

演劇を楽しみたい若い人達を募集しています。

ケイコ日 毎週火、金曜日夜6・30～9・00

連絡先 東田町 浜松朝鮮初中学校

TEL ④1111番

私達新津青年会の「浜っ子」も「逃散」「うばすて」「寒鴨」「象の死」と芸術祭に参加し、益々意欲を燃してお

ますが、反面、内部的な問題として、「特別視される」云いかえれば、全員活動ではないと云う点が上げられ、今后の運営に意をつくさねばならなくなつてきました。

変換する世の中での青年活動の進め方というどこにでもある問題に、私達もぶつかりつゝあります。が、荒波にめげずに育つ「浜っ子」の根性で更に頑張っていきたいと思ふ

入”。今迄作られた演劇をやつてきた私達、こんどは作つてやろうと思ったのです。
市合併により、芸術祭に参加出来たことは、私達にとって大きな不安と、これよりも大きな希望にふくれています。

■皆さんと共に

社演連に所属する各劇団を訪れて感じるのは「若いたくましいエネルギーが常にそこに発散している」と言うことです。
昨年つねに御支援をいたゞいている専売公社さんと共に「この小児」を上演をし皆様と接する機会を得、亦暖い御意見をいたゞきました。

私達は今年も昨年をかえりみて本年もと準備をいたしましたが、特に事情が許さず本年は不参加ということになりましたが、特に事情が許さず本年は不参加ということです。

低音で「オース」いわゆる年令的なものがそうさせるのであるが、ともかく地味な中にも調和のとれた美しさを保ち、創造の場を通じて専売さんと共に頑張ります。

どうぞよろしく。

職場劇団 国鉄

専 売

■新津青年会

年々オ々参加劇団は増える一方なら上演時間も長くなるたるで、と。そして、そこから生まれた私達の作品「村

今后共宜敷く御指導、御鞭撻の程をお願い申上げます。